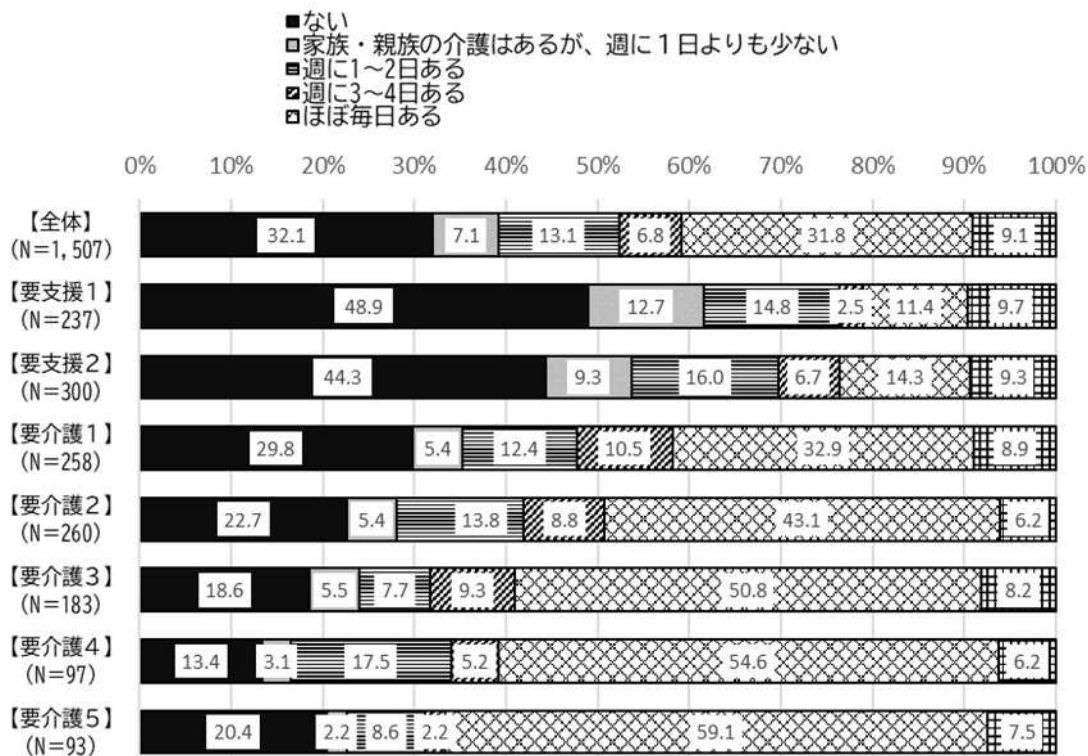
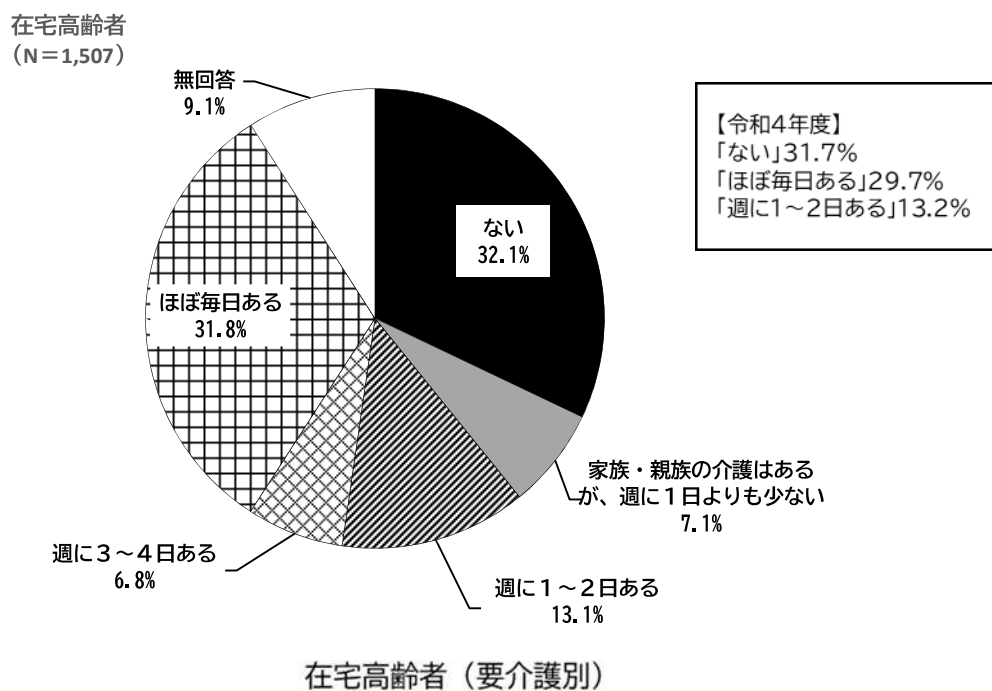


1 2. 介護保険制度

(1) 家族や親族からの介護の頻度

対象：『在宅高齢者』

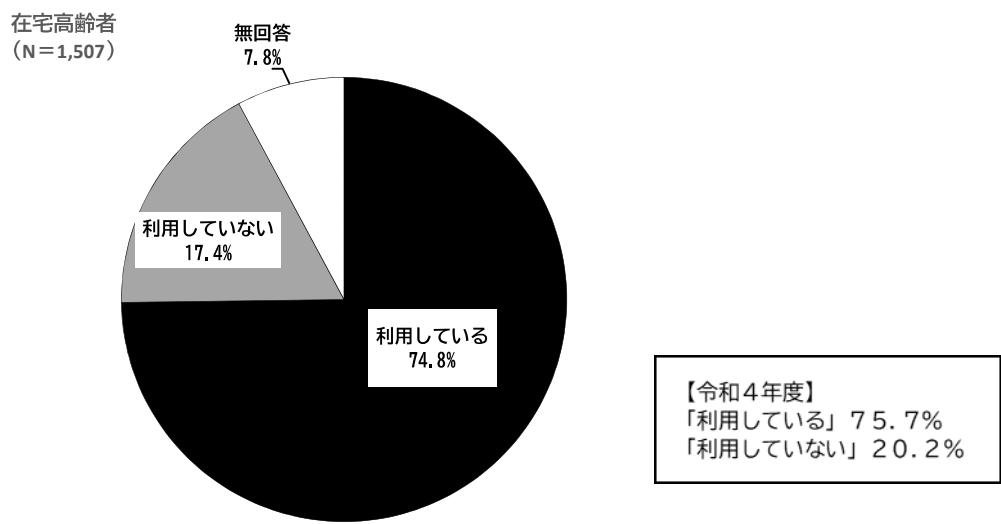
家族や親族からの介護が週どのくらいあるか尋ねたところ、「ない」が32.1%と最も多く、次いで「ほぼ毎日ある」が31.8%、「週に1～2日ある」が13.1%となっている。



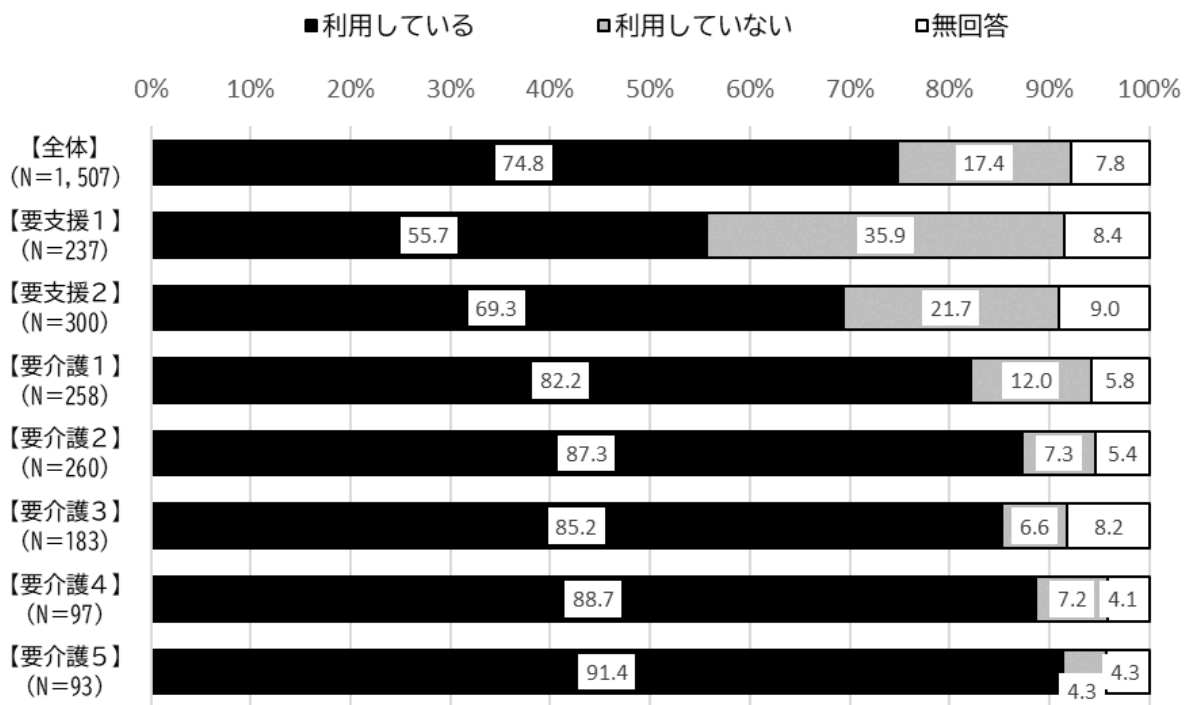
(2) 介護保険サービスの利用状況

対象：『在宅高齢者』

現在、介護保険のサービスを「利用している」在宅高齢者は 74.8%、「利用していない」は 17.4% となっている。



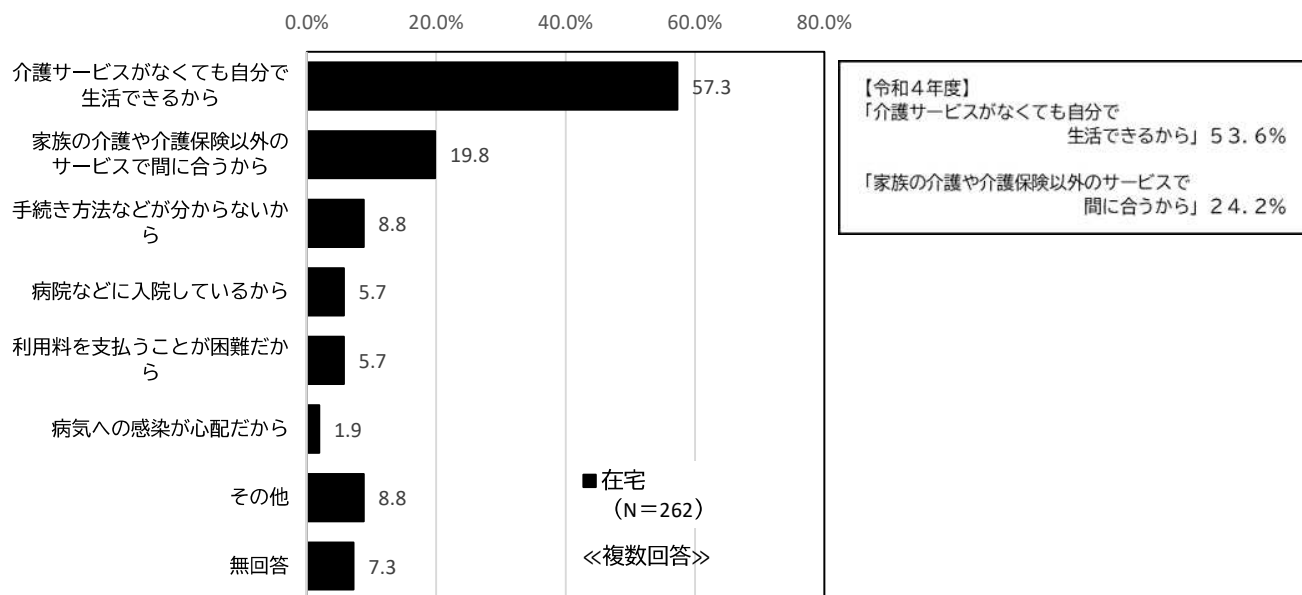
在宅高齢者（要介護別）



(2) - 1 介護保険サービスを利用していない理由

対象：『在宅高齢者』

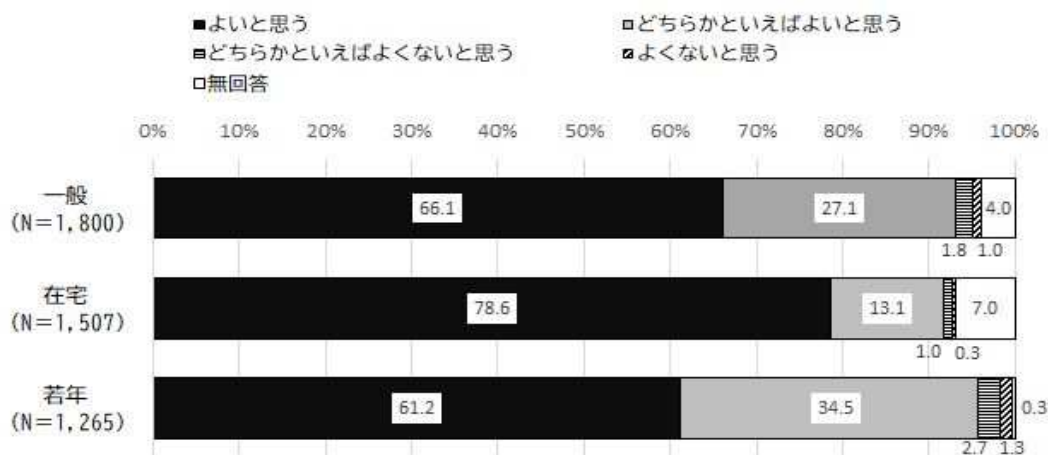
介護保険サービスを「利用していない」と回答した人に、利用していない理由を尋ねたところ、「介護サービスがなくても自分で生活できるから」が57.3%と最も多く、次いで「家族の介護や介護保険以外のサービスで間に合うから」が19.8%となっている。



(3) 介護保険制度に対する考え

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

介護保険についてどのように考えるか尋ねたところ、「よいと思う」は一般高齢者が66.1%、在宅高齢者が78.6%、若年者が61.2%で最も多く、「どちらかといえばよいと思う」と回答した人と合わせると、一般高齢者で93.2%、在宅高齢者で91.7%、若年者で95.7%といずれも9割を超えている。



「よいと思う」+「どちらかといえばよいと思う」の合計

【令和4年度】
 一般：93.6% 在宅：90.6% 若年：95.7%

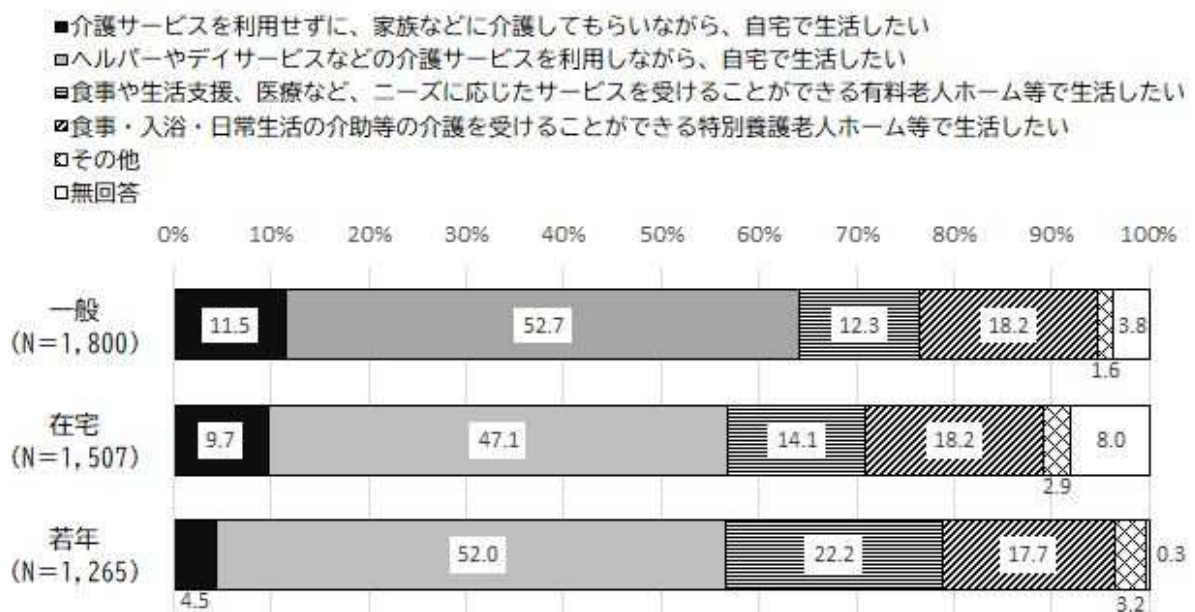
【令和7年度】
 一般：93.2% 在宅：91.7% 若年：95.7%

1.3. 保健・福祉サービスの利用意向

(1) 介護が必要な状態になったときに希望する生活場所

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

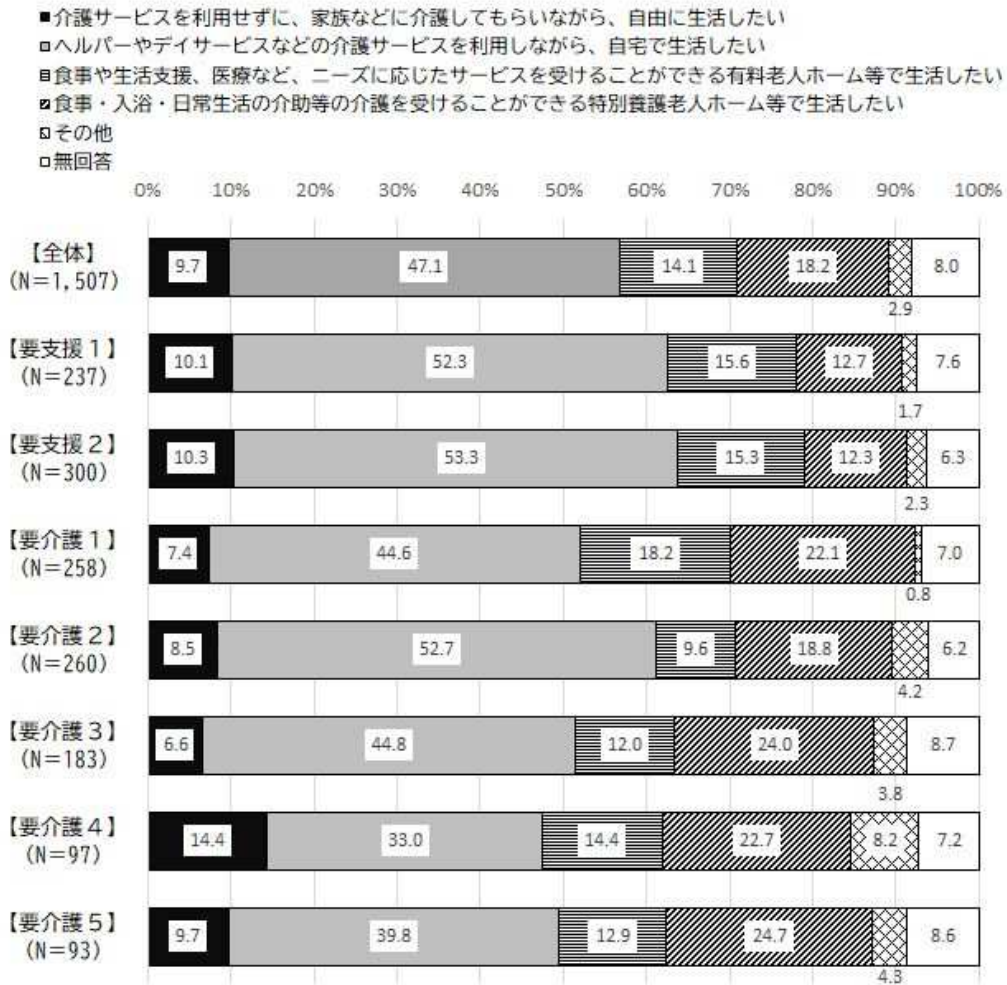
介護が必要な状態になったとき(在宅高齢者の場合は、現在よりもさらに介護が必要になったとき)に、どこで生活することを希望するか尋ねたところ、「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多く、一般高齢者で52.7%、在宅高齢者で47.1%、若年者で52.0%となっている。また、若年者では「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活したい」が22.2%と一般高齢者の12.3%、在宅高齢者の14.1%よりやや高い傾向となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、いずれの要介護度においても「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多くなっている。次いで要介護1～5は「食事・入浴・日常生活の介助等の介護を受けることができる特別養護老人ホーム等で生活したい」の割合が多く、要支援1・2は「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活したい」が多くなっている。

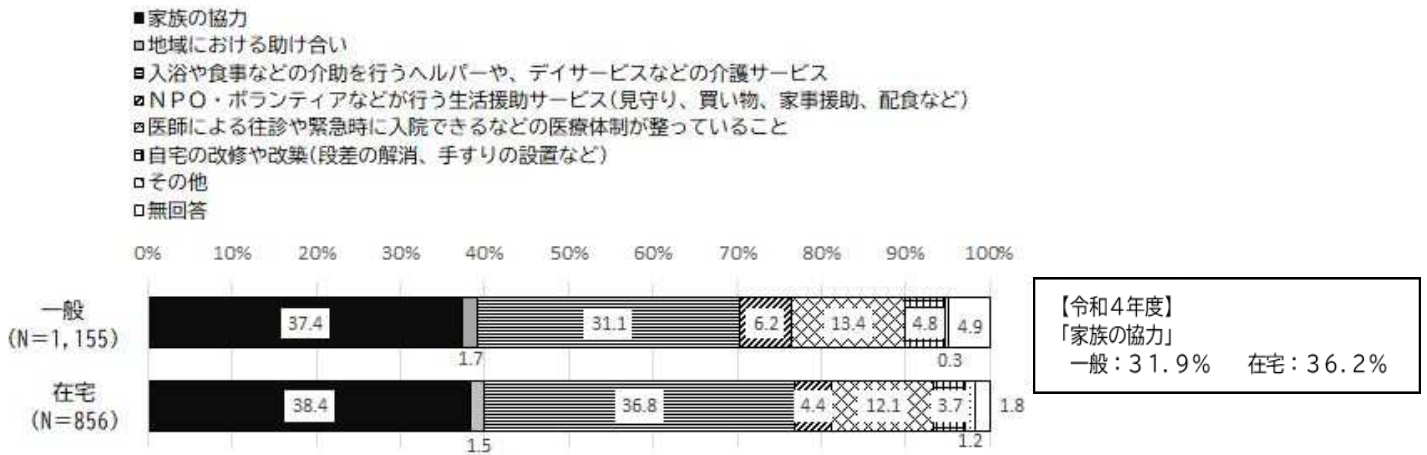
在宅高齢者（要介護度別）



(1) - 1 自宅で暮らし続けるために最も必要なこと

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

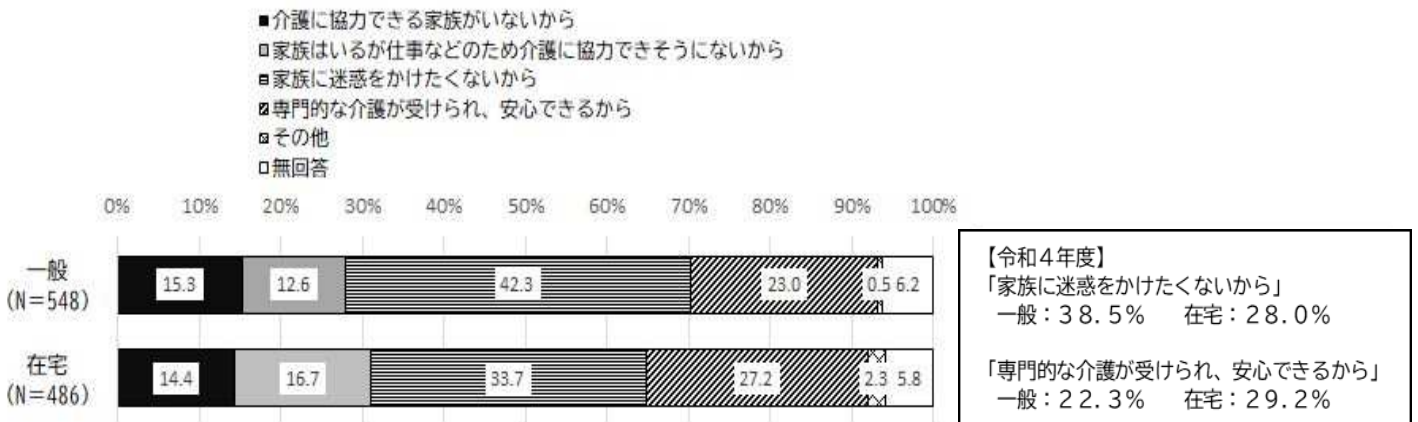
介護が必要な状態になったときに「自宅で生活したい」と回答した人に、自宅で暮らし続けるために必要なことを尋ねたところ、「家族の協力」が最も多く、一般高齢者で 37.4%、在宅高齢者で 38.4%となっており、次いで「入浴や食事などの介助を行うヘルパーや、デイサービスなどの介護サービス」が一般高齢者で 31.1%、在宅高齢者で 36.8%となっている。



(1) - 2 施設での生活を希望する理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

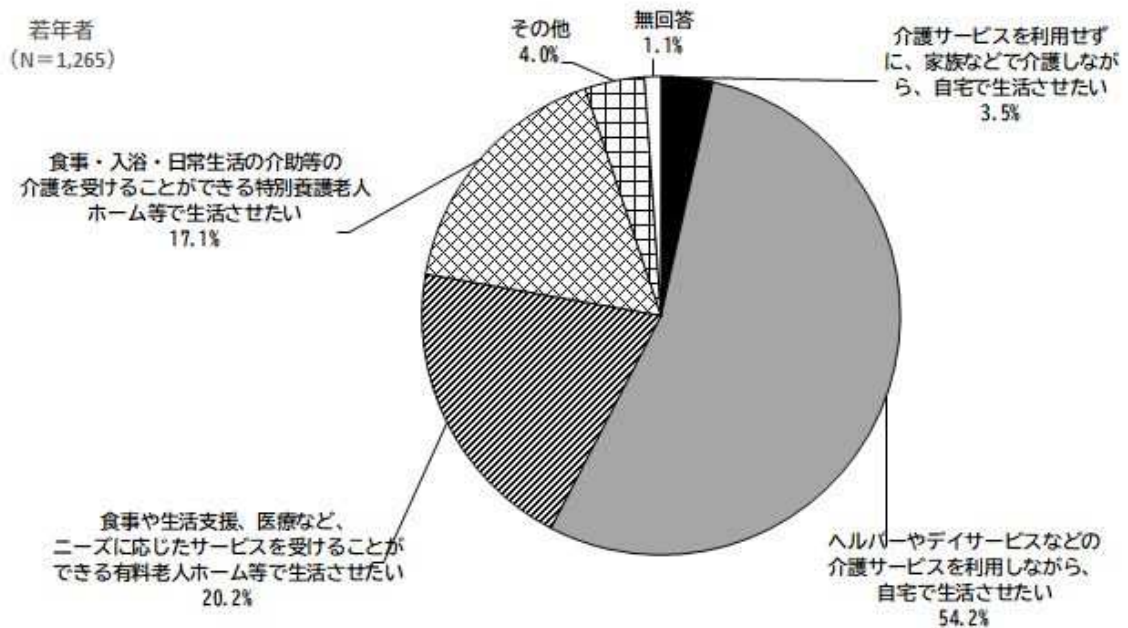
介護が必要な状態になったときに施設で生活したいと回答した人に、理由を尋ねたところ、「家族には迷惑をかけたくないから」が最も多く、一般高齢者で 42.3%、在宅高齢者で 33.7%となっており、次いで「専門的な介護が受けられ、安心できるから」が一般高齢者で 23.0%、在宅高齢者で 27.2%となっている。



(2) 家族を介護する状況となったときに希望する介護

対象：『若年者』

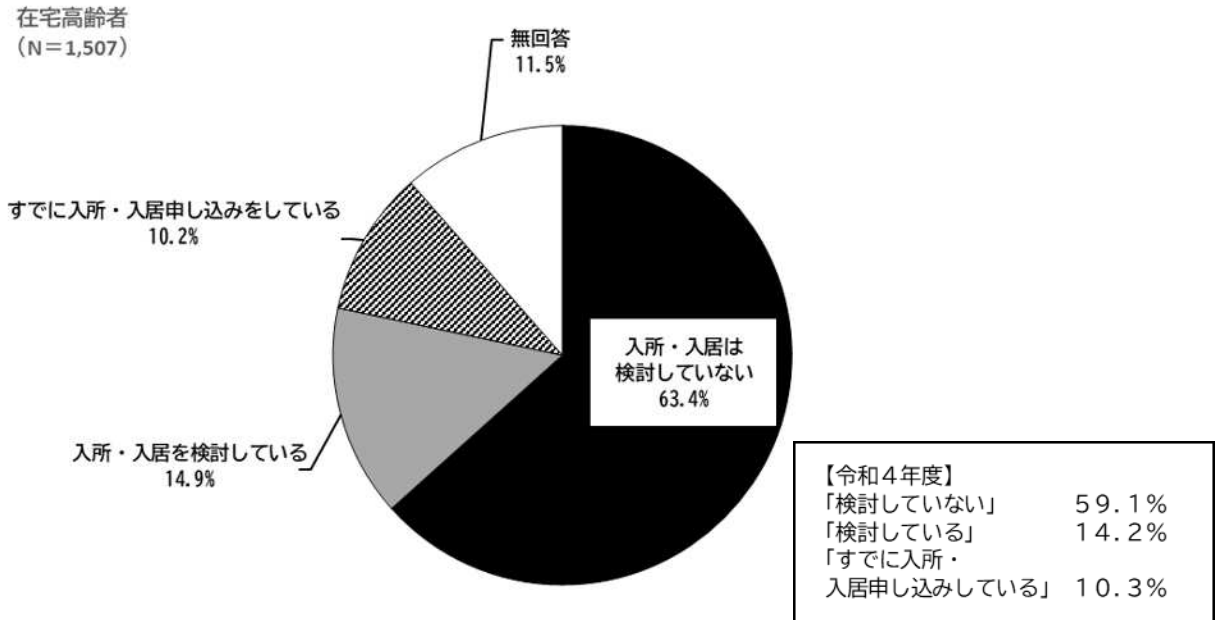
若年者層を対象に、家族(親・夫・妻など)を介護する状況となったときに、どのような介護を希望するか尋ねたところ、「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい」が54.2%と最も多く、次いで「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活させたい」が20.2%、「食事・入浴・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホーム等で生活させたい」が17.1%となっている。



(3) 施設への入所申し込み

対象：『在宅高齢者』

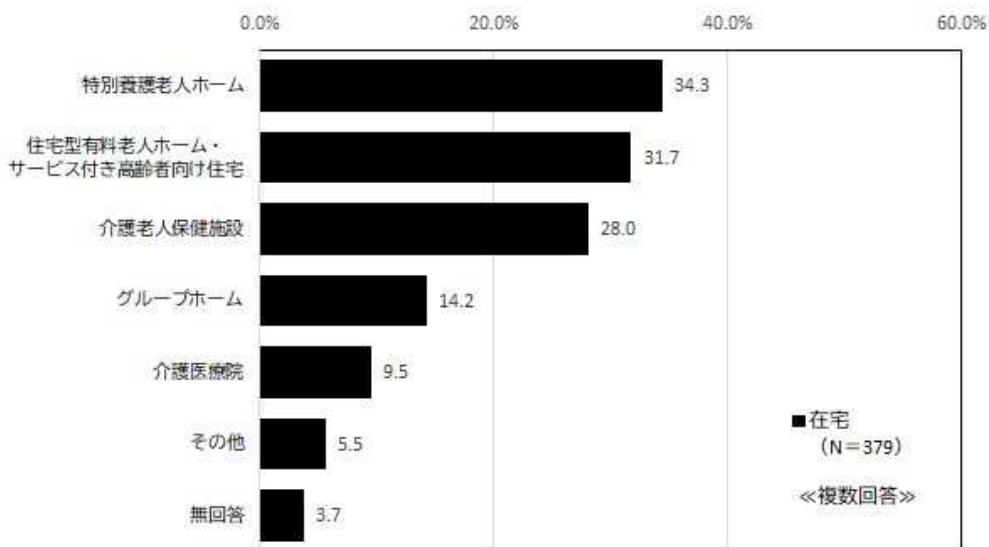
施設への入所申し込みについては、「検討していない」が63.4%、「検討している」が14.9%、「すでに申し込みをしている」が10.2%となっている。



(3) -1 入所・入居を検討している施設

対象：『在宅高齢者』

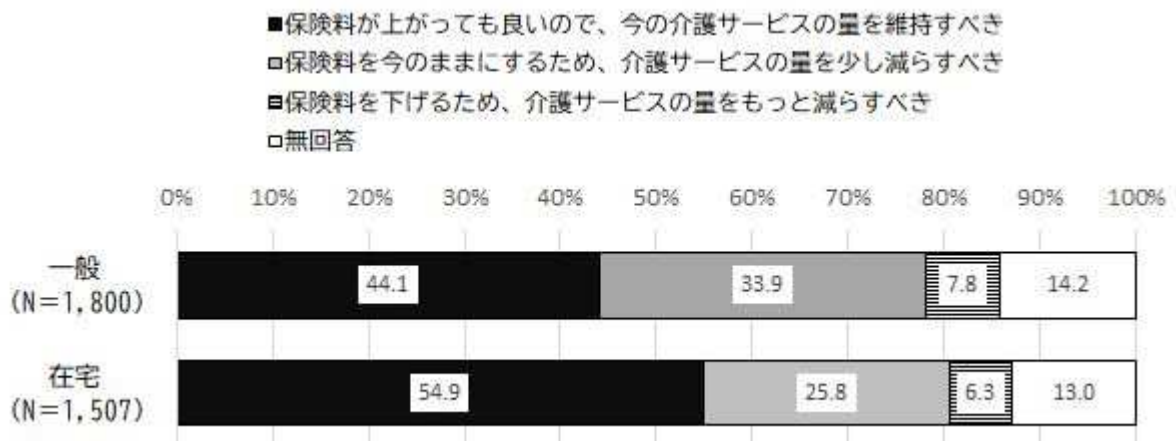
施設への入所・入居申し込みについて「検討している」または「申し込みをしている」と回答した人にどのような施設か尋ねたところ、「特別養護老人ホーム」が34.3%と最も多く、次いで「住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」が31.7%、「介護老人保健施設」が28.0%となっている。



1 4. 介護保険の負担に対する考え方

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護保険サービスと介護保険料の関係についての考えを尋ねたところ、「保険料が上がっても良いので、今の介護サービスの量を維持すべき」が最も多く、一般高齢者で 44.1%、在宅高齢者で 54.9%となっている。次いで「保険料を今のままにするため、介護サービスの量を少し減らすべき」が一般高齢者で 33.9%、在宅高齢者で 25.8%となっている。

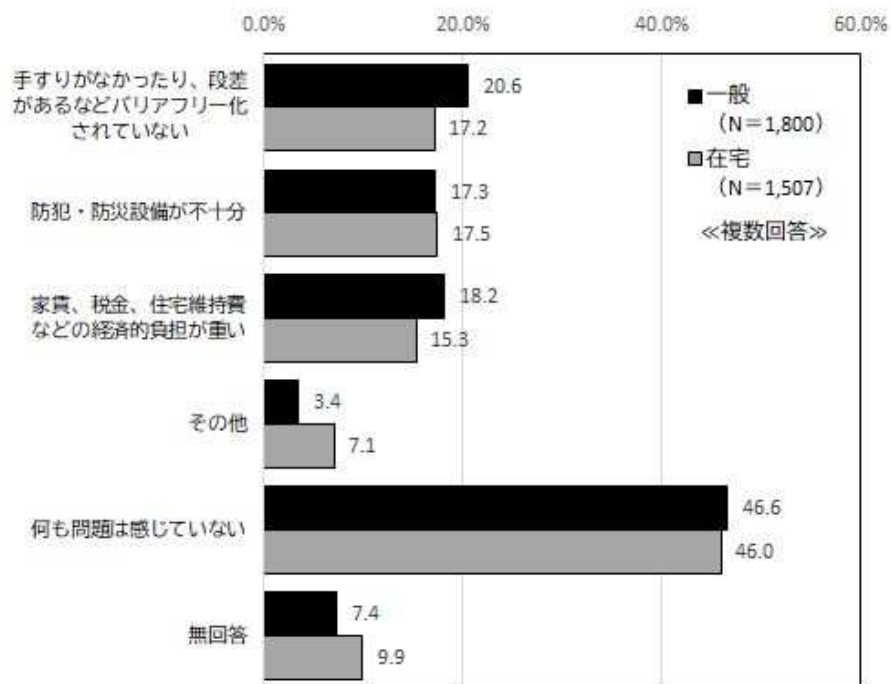


15. 生活環境

(1) 住宅の問題

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

現在住んでいる住宅について、どのような問題を感じているか尋ねたところ、「何も問題は感じていない」が最も多く、一般高齢者で46.6%、在宅高齢者で46.0%となっている。次いで「手すりがなかったり、段差があるなどバリアフリー化されていない」、「防犯・防災設備が不十分」、「家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い」が同程度となっている。

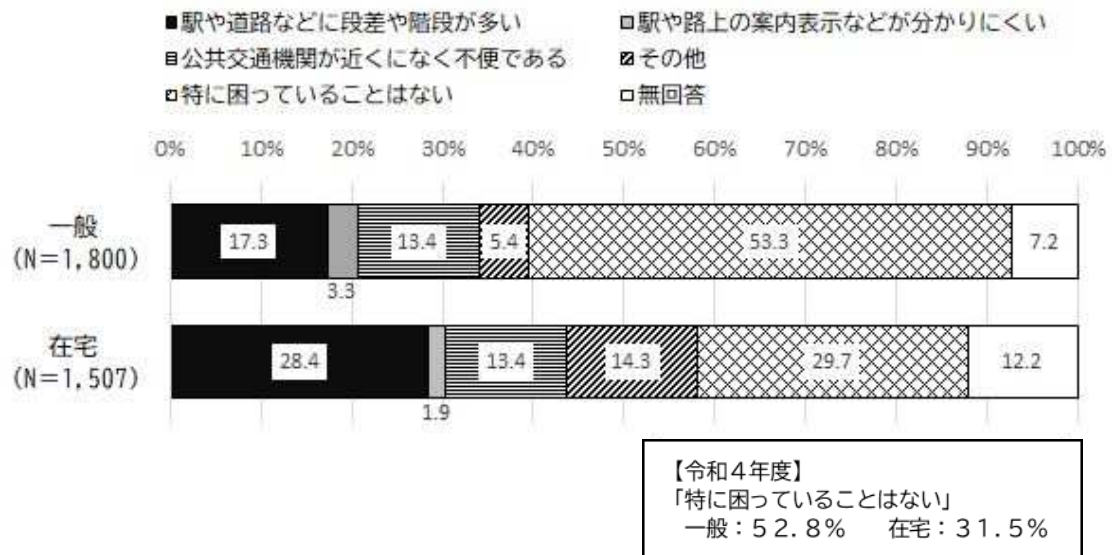


【令和4年度】
「何も問題は感じていない」
一般：39.2% 在宅：37.6%

(2) 外出・移動時の問題点

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

外出や移動のときに最も困っていることは何か尋ねたところ、「特に困っていることはない」が最も多く、一般高齢者で53.3%、在宅高齢者で29.7%となっている。次いで「駅や道路などに段差や階段が多い」が一般高齢者で17.3%、在宅高齢者で28.4%となっている。

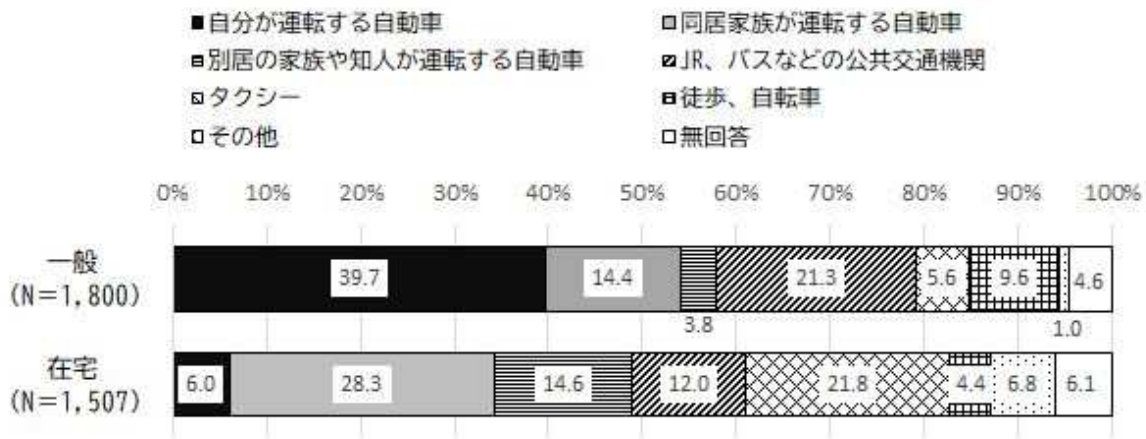


(3) 外出の際に最も利用する移動手段

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

外出する際に最も多く利用する移動手段を尋ねたところ、一般高齢者では「自分が運転する自動車」が39.7%と最も多く、次いで「JR、バスなどの公共交通機関」が21.3%、「同居家族が運転する自動車」が14.4%となっている。

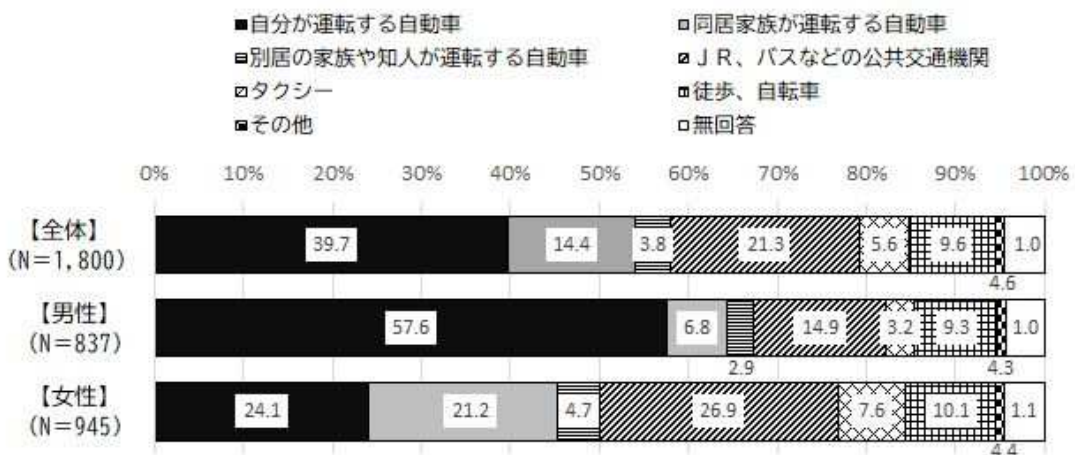
在宅高齢者では「同居家族が運転する自動車」が28.3%で最も多く、次いで「タクシー」が21.8%、「別居の家族や知人が運転する自動車」が14.6%となっている。



【属性別特徴】

一般高齢者について男女別にみると、男性では「自分が運転する自動車」の割合が女性に比べ大幅に多い。一方、女性では「同居家族が運転する自動車」、「JR、バスなどの公共交通機関」の割合が男性に比べて多くなっている。

一般高齢者（男女別）

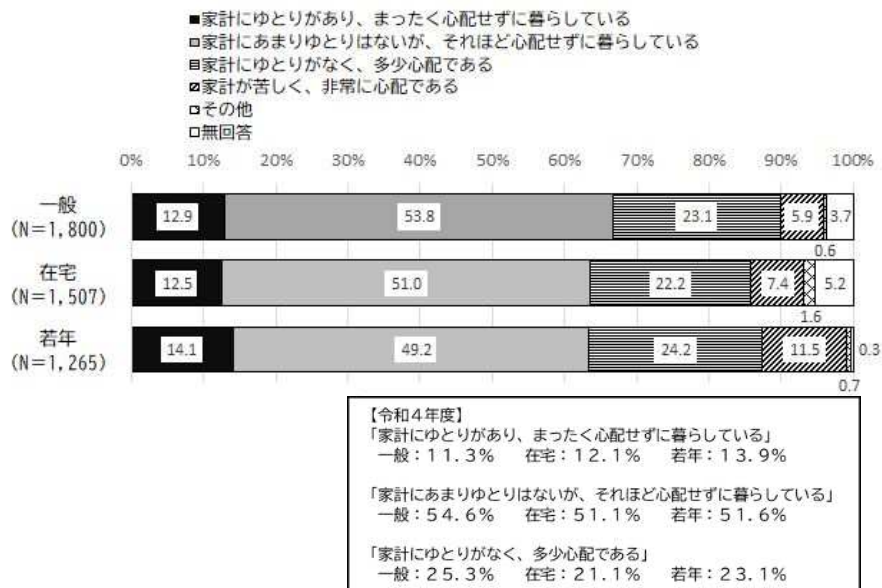


16. 暮らし向き

(1) 現在の暮らし向き

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

現在の暮らし向きについて尋ねたところ、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」が最も多く、一般高齢者で53.8%、在宅高齢者で51.0%、若年者で49.2%となっている。次いで「家計にゆとりがなく、多少心配である」が、一般高齢者で23.1%、在宅高齢者で22.2%、若年者で24.2%となっている。

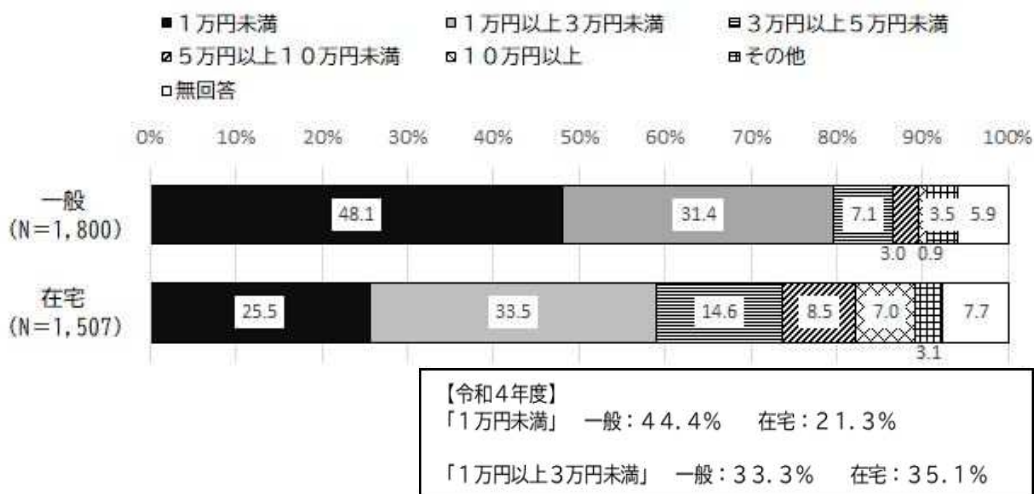


(2) 保健・医療・福祉関係サービスへの支出

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

保健・医療・福祉関係のサービスに対して支払っている金額（月額）について尋ねたところ、一般高齢者では「1万円未満」が48.1%と最も多く、次いで「1万円以上3万円未満」が31.4%、「3万円以上5万円未満」が7.1%となっている。

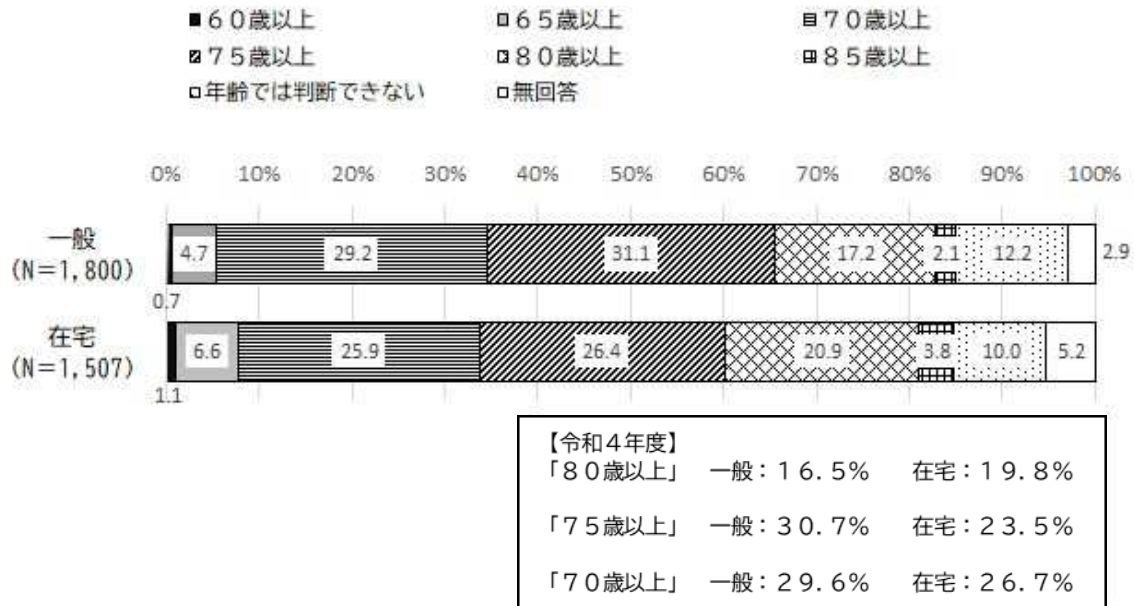
在宅高齢者では、「1万円以上3万円未満」が33.5%と最も多く、次いで「1万円未満」が25.5%、「3万円以上5万円未満」が14.6%となっている。



17. 高齢者

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

何歳頃から「高齢者」だと思うか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者いずれも「75歳以上」が最も多く、次いで「70歳以上」、「80歳以上」となっている。



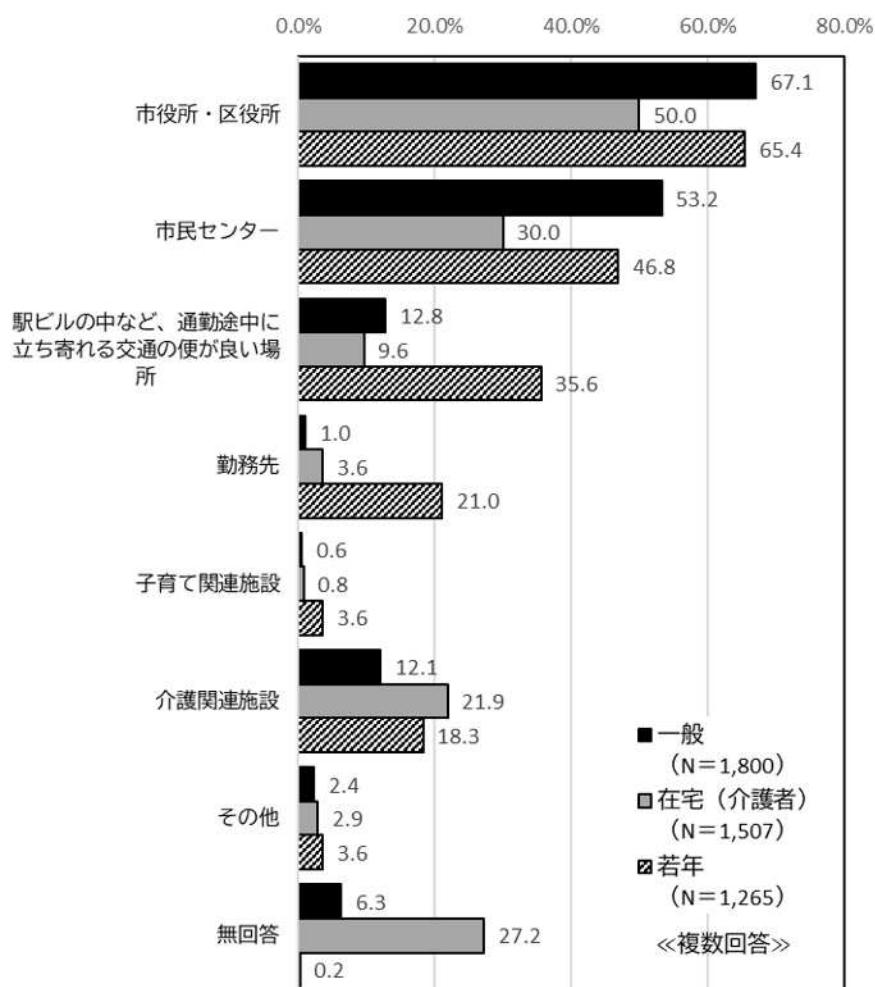
18. 高齢者福祉施策

(1) 相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

福祉に関する相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか尋ねたところ、「市役所・区役所」が最も多く、一般高齢者で67.1%、在宅高齢者（介護者）で50.0%、若年者で65.4%となっている。次いで「市民センター」が一般高齢者で53.2%、在宅高齢者（介護者）で30.0%、若年者で46.8%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	市役所・区役所（67.1%）	市役所・区役所（50.0%）	市役所・区役所（65.4%）
2位	市民センター（53.2%）	市民センター（30.0%）	市民センター（46.8%）
3位	駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所（12.8%）	介護関連施設（21.9%）	駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所（35.6%）



(2) 北九州市が力を入れていくべき施策

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

どのような施策に力を入れていくべきか尋ねたところ、一般高齢者では「介護に関する相談窓口や相談体制の整備」が44.2%と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が44.0%となっている。

在宅高齢者本人では「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.7%と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が41.1%となっている。

在宅高齢者（介護者）では「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が40.6%、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が37.3%となっている。

若年者では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が52.5%と最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が51.2%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（44.2%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（42.7%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（40.6%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（52.5%）
2位	在宅で介護する家族に対する支援の充実（44.0%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（41.1%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（37.3%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（51.2%）
3位	利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供（42.2%）	認知症高齢者対策の充実（38.5%）	財産管理や成年後見などの権利擁護の充実（35.2%）	特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護支援の整備（46.8%）

【令和4年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（46.0%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（43.6%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（34.4%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（56.0%）
2位	在宅で介護する家族に対する支援の充実（45.8%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（42.5%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（34.2%）	特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護支援の整備（54.0%）
3位	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（44.4%）	高齢者の就職や起業、NPO活動などへの支援の充実（41.8%）	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（32.9%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（52.7%）

